

# ミニ船団化巻網第1号船

## 「第八十八惣寶丸」が竣工

八戸で披露 祝賀会 「安定経営」を目指す

福島漁業

【八戸】北部巻網のミニ船団化第一号船団である、青森・八戸の(株)福島漁業(福島哲男社長)の第八十八惣寶丸が十三日、地元・八戸で披露された。

竣工祝賀会で福島社長は「関係者の皆さんのおかげで実現し、長年の夢が開花した気分だ。生き残りをかけた船だと思っ



岸壁で大漁旗を翻す「第八十八惣寶丸」



ている。期待を背負った船だと認識しており、努力していきたい。五十五年前にわが社を創立、沿岸漁船から始めた父にとって、巻網漁船をもつことは夢だった。以来、巻網、底引、大型イカ釣

な船ができたが、父が今年八十八歳になることを記念して、第八十八惣寶丸と名付けた」とあいさつした。  
建造を担当した木嶋武郎三保造船所社長は「今の時期にこの船が完成したのは、福島社長の素早い決断があったから」と、建造が英断であることを強調。来賓として大島理森元農林水産大臣は「水産物自給率の向上には、

漁船漁業の復活が不可欠。この船が漁業経営改善に貢献することを期待する」と、井賈晴介水産庁研究指導課長は「漁業経営の改善を目指したこの船には、これまでのように『大漁を祈願』するのではなく、『安定経営を祈願』したい」など、それぞれ祝辞を述べた。また、長谷川義彦青森県出納長、中村寿文八戸市長が祝辞を述べ、岩崎寿男北まき漁連会長の音頭で乾杯した。

祝賀会の当日午前中には港で関係者に船が公開され、大きく、使い勝手のいい船内が紹介された。第八十八惣寶丸は三百トで、全長六十一・三六六メートル、幅十一・六メートル、深さを二隻に削減、乗組員を減らし、効率化する設計でコストの削減する一方、大型化して操業の安全性や居住性も向上した。「量重視から利益重視へ」を具現化し、画期的な漁船漁業の経営改善につながることを期待されている。